阿弥陀岳中央稜

日時:2012 年 2 月 24 日(夜)～26 日

山域:八ヶ岳連峰　阿弥陀岳

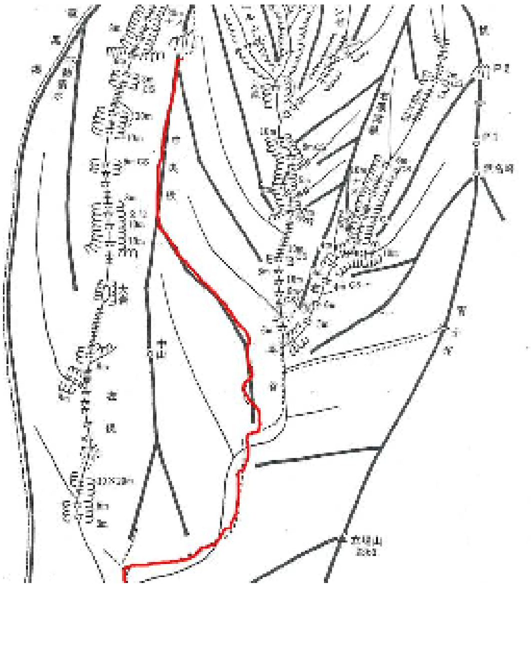
参加者(敬称略):金井良一(CL), 山口修, 杉本伸一(記)

コースタイム:

2 月 24 日(金)　21:30 新逗子駅出発

2 月 25 日(土)　1:40 舟山十字路(仮眠)－7:40 出発－9:30 広河原沢－10:30 中央稜取付
14:30 幕営(2,420m 付近)

2 月 26 日(日) 6:40 出発－8:10 第一岩峰－9:40 帰幕－10:20 二俣－12:00 舟山十字路



（舟山十字路で出発準備中の金井さん）

（雪の降る林道で小休止の山口さん(奥)と金井さん(手前)

24 日夜、新逗子駅でピックアップしてもらい、国道 16 号、中央道を経由し、舟山十字路に深夜着。仮眠をとる。翌朝雪のパラつくなか出発。林道を 1 時間ほど行き、林道から広河原沢に降りる。ここまではしっかりとした踏み跡をたどれば歩き易い。しばらくすると、初めての堰堤に着く。ここは堰堤の右側がルートであるが、昨夜の雪で踏み跡が不明瞭な為、左側に進む。膝下まで埋まるが、ラッセルの練習に丁度良いと笑いながら進む。まだ余裕がある。舟山十字路からここまで、誰とも会わない。我々3 名以外誰もいない。非常に静かで快適なアプローチとなった。

堰堤を 2 つ越えると、二股に出る。中央稜の取り付きは 2 カ所あり、二股基部からと、右股を回り込むコースとある。我々は、右股を回り込んで取り付く。沢を離れると、膝から時より腰までのラッセルが始まる。金井さん、杉本、山口さんの順に進む。取り付いてしばらく登ると大きな岩がルート上に出現する。直登も出来そうであったが、ルート図の通りここは、左から撒く。徐々に傾斜が増してくるが、一向に雪が締まる気配がない。所々に目印の赤布を括り付けながら進む。途中、金井さんと、先頭を換わりラッセル初体験をする。本格的なラッセルは初めての体験である。3 人で交代しながら進むが、3 人交代なので、体力が回復する前に順番がまわってくる。進むにつれさらに傾斜が増す、ザックをデポして空身でラッセルをする。疲れも出てバテてきたが、不思議と足が前に出るし、闘志も湧いてくる。

途中に開けた平坦な場所があったが、少しでも先に進みたくて、もう 1 ピッチ頑張った所で幕営。

（ラッセル初体験の杉本）

（だんだん傾斜が増してきた。が嬉しそう･･）

この日は、終始ラッセルで運動量が多かった事もあるが、八ヶ岳にしては寒くないと感じた。夕食は、赤味噌と八丁味噌をブレンドした特製豚汁。デザートには金井さん特製のお汁粉。まさか、山の中で焼いた餅の入ったお汁粉が食べられるとは思わなかった。

夜も更けてくると、さすがに寒くなってきた。やはり八ヶ岳、眠る頃には昨年同様に寒い。厳冬期の幕営に慣れていない事もあり、全然眠れないまま朝を迎えた。

（頂上を目指して出発前の山口さん・金井さん）　　（幕場にて）

2 日目は天気も良く、気持ちの良い朝である。朝食を食べ、出発間際に水が無いことに気がついた。大失敗である。食当の私が忘れてしまっていた。大反省。

今日の行動予定は、8 時までに頂上に行けない場合は戻る事にしていた。

幕場から先は森林限界である。この先、雪が締まっている事を期待していたが、昨日同様、膝上から腰までのラッセルとなった。第一岩峰下のルンゼ手前で 8 時を回ってしまった。岩峰下で小休止し帰幕した。天幕を撤収し下山開始。ラッセルに苦しめられ登って来た道を一気に下る。わずか 1 時間半で取り付きまで戻った。全く信じられない程、呆気なく降りて来た。南陵には複数のパーティが登っているのが見えたが、中央稜入る者は、我々だけで貸し切り状態となった。静かな山行が出来た。

舟山十字路の駐車場には 12 時過ぎに到着した。この後、車の故障が起きると言うトラブルはあったものの、無事 21 時過ぎに新逗子駅で解散した。

（下山中に阿弥陀岳を振り返る）

今回は、残念ながら山頂を踏むことは出来なかったが、次回は、北陵から阿弥陀岳山頂を目指したいと思う。

以上